

優しい和歌山

肖 靈修
教育学部 交換留学生 中国

私から見た和歌山は優しいところだ。なぜかという、和歌山の人々や物事が優しいと思うからだ。

まずは和歌山の人々が親切だと思う。和歌山に来たのは3月末だった。飛行機が遅れたせいで、ついたときはもう夜の9時だった。二人のクラスメートと一緒に、荷物をたくさん持って、タクシーに乗ることにした。夜にこのまったく知らない町でタクシーに乗るのは少し心配した。にこにこした運転手さんが、六つの荷物を何とか車に入れて出発した。関西弁を話していたから、あまり聞き取れなかったが、とても親切な人と感じられた。目的地の国際交流会館で降りたが、運転手さんは他のところに行ってしまうと、私たちが会館に入れるかどうか確認してくれた。通りがけの知らない二人も会館の責任者に連絡してくれた。そのときは本当に安心した。

和歌山に来た後、周りの人たちがいろいろ手伝ってくれた。来る前に思った寂しいや不安という感じが全くしなかった。先輩が案内してくれたり、一緒に買い物に行ったりするし、優しくてかわいい国際教育研究センターのスタッフさんたちがわかりやすく説明してくれたし、スーパーや銀行や市役所の人も礼儀正しいし、ありがたいと思う。和歌山に来て二、三日のある夜、水が合わないせいか、急に高い熱が出た。病院も薬局もどこかわからなかった私は焦ることしかできなかった。中国に何度も行ったことがあり、中国のことに詳しい、国際交流が大好きな郵便配達員が、私のことを聞いてすぐ病院まで送ってくれて助かった。とても感謝した。和歌山の優しい人々のおかげで、外国での生活にだいぶ慣れてきた。

そして、和歌山の物事も優しいと思う。例えば、交通の面では、車より歩いている人が優先だというルールが規律正しく守られていた。そして、信号は音声があり、視覚障害者に思いやりがあると思う。環境の面では、ポイ捨てがほとんどない。ごみ分別が詳しいし、ごみを出すルールも厳しいし、環境にかなり優しい。日常生活といえば、自動販売機やコンビニがたくさんあり、電気料や保険料などを支払うのも便利だし、暮らしやすい。大学では、様々な授業が開設され、自分の好きなように選べる。無料で印刷でき、ピアノ練習室を利用することも優しいと思う。様々な面で和歌山の物事の優しさが感じられている。

和歌山は確かに優しいところだと思うのだが、少し気になることがある。大学生たちは毎日小中高と同じように通学している。中国は、大学が家から通学が不可能なほど遠い場合が多いため、大学生はほとんどが寄宿生で、学生寮に住んでいる。それが日本と中国の大学の一番の違いだと思う。私たちはルームメートと一緒にいる時間が多く、とても親しくなる。和歌山大学では、学生の交流が少し足りない気がする。同じ授業を選び、同じ小さい教室で講義を受ける学生たちはお互いに知らない場合もある。もっとコミュニケーションを深めたほうがさらに良くなると思う。例えば、授業でグループになって話し合ったり、ラインでグループを作って、授業の質問や好きなことなどを交流したりすれば、授業の雰囲気もさらに活発になるだろうと私は思っている。おそらく私が知っている人は一回

生で、まだ交流が少ないせいかもしれない。それにしても、優しい和歌山で楽しく過ごせた。

したがって、和歌山は優しいところだと思う。帰るまでこの優しい和歌山でいろいろなことを体験したいと思う。

